

中海・宍道湖・大山圏域のポテンシャルを發揮するため速やかに交通ネットワークを強化

↳ <人口・経済規模が大きい> <各種資源が豊富> <観光客の増加に期待>

交通インフラに求める機能

通勤・通学

- 中海・宍道湖圏域が約7割
- 自家用車の割合が約8割
- ⇒ 圏域内移動の円滑化

圏域の産業構造

- 経済規模大、異なる特徴
- 工業団地が多く立地
- ⇒ 圏域の一体的発展

人口

- 人口減少
- 高齢化
- 20代の人口流出
- ⇒ 関係人口の創出・拡大

観光

- 魅力的な観光地が点在
- 空と海の玄関口を有する
- ⇒ 観光地間の移動短縮

医療

- 三次医療機関が4つ立地
- 救急搬送件数は増加傾向
- ⇒ 送達性・安定性等の改善

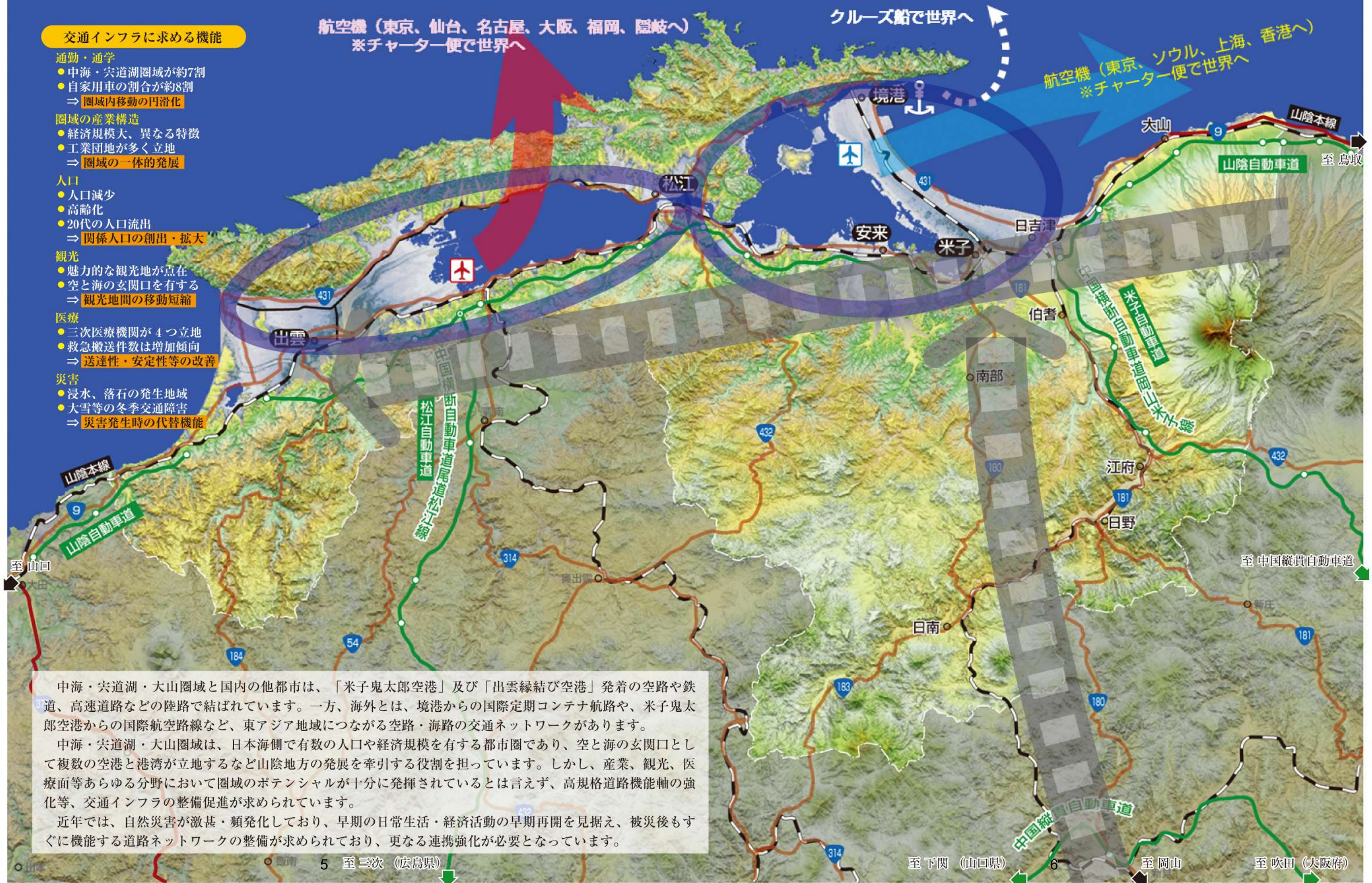
災害

- 浸水、落石の発生地域
- 大雪等の冬季交通障害
- ⇒ 災害発生時の代替機能

航空機（東京、仙台、名古屋、大阪、福岡、隠岐へ）
※チャーター便で世界へ

クルーズ船で世界へ

航空機（東京、ソウル、上海、香港へ）
※チャーター便で世界へ



中海・宍道湖・大山圏域と国内の他都市は、「米子鬼太郎空港」及び「出雲縁結び空港」発着の空路や鉄道、高速道路などの陸路で結ばれています。一方、海外とは、境港からの国際定期コンテナ航路や、米子鬼太郎空港からの国際航空路線など、東アジア地域につながる空路・海路の交通ネットワークがあります。

中海・宍道湖・大山圏域は、日本海側で有数の人口や経済規模を有する都市圏であり、空と海の玄関口として複数の空港と港湾が立地するなど山陰地方の発展を牽引する役割を担っています。しかし、産業、観光、医療面等あらゆる分野において圏域のポテンシャルが十分に發揮されているとは言えず、高規格道路機能軸の強化等、交通インフラの整備促進が求められています。

近年では、自然災害が激甚・頻発化しており、早期の日常生活・経済活動の早期再開を見据え、被災後もすぐに機能する道路ネットワークの整備が求められており、更なる連携強化が必要となっています。

5 至三次（広島県）

至下関（山口県）

至岡山

至吹田（大阪府）